

「ふるさと春日井学」研究フォーラム

会報

Forum for Furusato Kasugai Studies

NO. 67

「ふるさと春日井」まちづくりへの応援メッセージ

2019. 5. 31 発行

『ふるさと意識なくして地域の活性化なし』

編集責任者：河地 清

[Kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp](mailto:Kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp)

第 67 回「ふるさと春日井学」研究フォーラム

テーマ『和爾良神社再興 800 年祭と小野道風』

「和爾良神社合祀・再興八百年祭と小野匠守道風命御鎮座について」

平成 31 年 4 月 7 日（日）市民活動支援センター（ささえ愛センター）において「ふるさと春日井学」研究フォーラムをテーマ：『和爾良神社再興 800 年祭と小野道風』と題して、山本哲夫氏（本会会員・和爾良神社合祀・再興八百年祭実行委員会副実行委員長）に講演していただきました。

小野道風の生誕については今日まで松河戸説・上条説の両説が言い伝えられて来ました。近年の研究では松河戸説でほぼ決着しているのではないと言われてきましたが、上条地域の人々による「和爾良神社再興 800 年祭」の実行にあたって、上条生誕説が、考古学的視点を根拠にした説得力ある見解が示されることによって、生誕地論争に新たな一石が投げられました。山本氏は、和爾良神社再興 800 年記念誌の編集の傍ら現在榎原考古学研究所の研究員でもあり、以前から古代史、歴史考古学の立場から和爾氏（和爾良神社）、上条城の埋蔵史跡に注目されてこられる中で、道風の居宅跡は上条城付近の可能性が高いとの仮説を立てられ研究をされてこられました。これを機に道風生誕地論争が再び盛り上がるのが期待されます。興味深い講演となりました。参加者は 31 名でした。



講演する 山本哲夫 氏



会場風景

— 発表要旨 —

「和爾良神社再興800年祭と小野道風」（和爾良神社合祀・再興八百年祭と小野匠守道風命御鎮座について）講演をいただいた。

和爾良神社の飛び地末社の大日社遷座祭は平成30年9月25日の日没後に行われた。大日社の造営中は和爾良神社に御神体が御遷されていて、大日社の完成で元に戻された。遷座祭は松明を焚き、提灯の淡い光の中でとり行われた。10月8日には和爾良神社合祀・再興八百年奉祝祭がとり行われた。奉祝実行委員長は林征（ゆき）雄氏、宮司3名、献幣使1名、近江神宮神職3名（小野道風神社）、小野道風神社惣代5名らが参加した。

**I. 和爾良神社祭神の由緒 … A. 創立：延喜式神名帳（927年）**に和爾良（ワニ）神社がでている。山田郡11座の一つであるが、現在の神社で上条の和爾良（カニ）神社以外に朝宮神社、両社宮神社（宮町）なども否定できない候補となる神社とされている。「尾張国神名帳」では名東区の和爾良神社（猪高）や藤森神社（本郷）、長久手の景行天皇社（宮脇）を含めて6つの神社が候補とならしている。特に朝宮神社は従来から資料などから比定（推定）され、上条の和爾良神社がそれを継承したとみられてきた。朝宮神社の社伝では、創建は定かではないが、鎮座のあと建保6年（1218）に上条城主の小坂光善（孫九郎）による和爾良白山神社を改めて建立し、朝宮の地には石川県の白山比咩（しらやまひめ）神社（鶴来市）から菊理姫命を勧請・合祀し朝宮白山宮と称した。戦国時代に戦火で社殿が焼失、江戸時代に再建した。（春日井市史地区編）山本氏はこれら論社・所説に反論し、上条の和爾良神社こそ正統とする。

**B. 和爾良神社の論社・所説の検討・論駁 … 論社**とは式内社を受け継いだ後裔の神社であることを否定できず可能性がある神社のことである。①従来説の「朝宮神社説」は、元上条の飛び地（朝宮町）から小坂孫九郎が上条に移設し再建した。一時は白山神社と称したと春日井市史や東春日井郡誌などに記されている。②「両社宮説」は春日井原新田の宇和原新田の森の中に和爾良神社祠が見つかり、尾張藩の許可を得て「和爾良神社両社宮」を名乗ったが、上条村が猛反対し、明治3年の神社改訂により和爾良神社の使用が不許可になり現在に至っている。

③「旧愛知郡所在の和爾良神社説」（名東区猪高）は、上条の和爾良神社が白山神社となっていたために、この神社が本名とされた時期があったが、祭神が誉田別命（ホムタワケノミコト）など和爾氏の関係祭神ではなく、創建も16世紀頃で対象外であるとする。その他の所説については、和爾良神社は、延喜式神名帳による「山田郡」所在が必須要件であることから朝宮神社も両社宮も対象外とする。上条の和爾良神社以外は資格なし。朝宮からの上条への遷座も否定する。

**II. 和爾良神社由緒（800年祭での新案内板） … 資料**には「延喜式内和爾良神社略記」の由緒が紹介されている。津田応助による東春日井郡誌と林金兵衛翁伝によると、1218年に、衰微していた和爾良神社を、この地に復興再建したのが今井兼平の子孫である男坂孫九郎光吉だと紹介する。小牧・長久手の戦（1584年）での長久手の敗報を受け、龍泉寺より北へ引揚げる豊臣軍の殿軍（しんがり）をつとめた堀尾茂助の部隊が攻撃を受けたことに怒り、堀尾の軍兵が手あたり次第放火したため、神社も大光寺も全焼した。1595年に上条

村総庄屋の林彦右衛門重登が社を再建し、1663年に尾張藩主徳川光友により修理が行われたと紹介している。

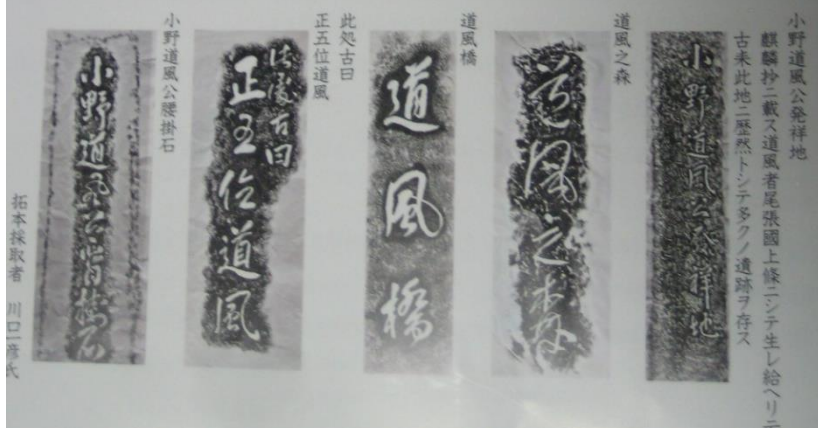
「800年祭」で参道に作られた「新案内板」の由緒には次のように書かれた。

平成30年は木曾義仲の四天王の1人である今井四郎兼平の子孫小坂（男坂）孫九郎が上条城を築き、同時にこの地に祀れる和爾良神社の荒廃を嘆き再興し、光善の祖神である磯城津（しきつ）彦尊および木曾義仲に随い霊峰加賀白山神社に祈り大勝を得たので**菊理比売命**を信仰し合祀してから八百年という慶賀の年にあたります。

和爾良神社は延喜式神名帳（西暦905－927に編纂）に記載されている和爾氏によっ



和爾良神社の全景写真



て創建された古社であり、「従三位**和爾天神**を祭祀す」とあります。所在は尾張国山田郡。姓氏を和爾古大国主命の六代目の**阿太賀田須**（あがたす）**命**とその子孫の建手（たけた）和爾命の二神が祀られています。

和爾氏は古代大和朝廷の中で大きな役割を担った氏族の宗家の六世紀の前半に継いだ模様で、和爾氏そのものの名前は史料からはほとんど消えてしまいました。和爾の付く地名は大

和国添上郡（奈良県）近江国志賀郡（滋賀県）および尾張国山田郡（愛知県）に残っている。この地域は尾張国山田郡ではありますが、庄内川の河道が変化したため、現在は春日部郡に属しています。再興後**和爾良白山宮**と称していましたが、平成五年、創建時の呼称に変更しました。また、和爾良神社を再興した折、上条城三の丸の外に外廊の土塁をめぐらせ、その南西の隅に**大日社**を御旅所として造営し、大日靈命（おおひるめのみこと、天照皇大神）を祀りました。

**Ⅲ. 和爾良神社の祭神からの検討** … 山本氏は祭神から朝宮から上条に遷座したのではないと検証する。①**阿太賀田須命**（赤阪比古命）は和爾氏の祖で、和爾氏の本拠地、天理市和爾町に立地する和爾坐赤阪比古神社の祭神である。②**建手**和爾命は尾張氏一族で和爾

氏と何らかの繋がりがあるものと推測される。尾張氏系図では建稻種の3、4代前の人物。③祭神から見れば**創建したのは、和爾氏族**（春日、小野など）と考えるが尾張氏族の可能性がある。いずれにしても創建はかなり古い時代（8世紀以前）と推測される。尾張氏は、長年、尾張国造と熱田神宮祇官で、ヤマト王権との関係が深い大豪族である。（記録者④ヤマト朝廷は律令制国家以前の体制。6世紀以降に氏姓制度、部民制や国造制を形成。7世紀に官司制を強めた。国造は大化の改新以後、地方官職のうち祭祀権を継ぎ郡司となって神事を司った。）

**IV. 小野道風生誕地、松河戸と上条の検討** … A. **誕生地 2 説**に対し、894年の道風誕生の時点の「集落の状況」について、松河戸発掘調査（1次～5次）によれば、松河戸辺りには縄文、弥生時代遺跡はあるがその後道風の時代、さらに、調査箇所が少なく断定ができないが、中世まで集落遺跡がなく、庄内川の氾濫原だった可能性が高い。一方、上条は、上条1丁目の発掘と上条城址発掘の史料のみであるが、何れも庄内川自然堤防、微高地で、古代から連続して生活遺跡があり、生活遺跡として不都合はない。また、麒麟抄に「尾張国上条で生まれた」と過大は書かれたのが唯一の「史料」であり、松河戸に天野信景の碑が建ち、松河戸村に道風生誕の伝承があるとしているが、「素直に考えれば、何故に上条が松河戸になるか不可解である」とし、上条が誕生地である可能性が高いと結論づける。和爾氏と小野氏についても調べられた。特に、和爾氏との関係がこの上条の地が道風誕生地との可能性が高いとする。

課題は次の点である。①庄内川の流路の変遷年代。過去に記録があるか。②上条城址の調査、保存と城主小坂孫九郎の調査。（鎌倉時代の城址が残っているのは全国的にも貴重である。前野家から養子になった信長時代の小坂孫九郎雄吉とどこから来たのか初代孫九郎光善のこと）③和爾氏と尾張氏の接点と足跡。春部（春日井）、和爾良、上条、小野の名称との繋がり。④小野道風神社の造営について。以上4点を示された。

**V. 和爾良神社参道の800年祭「新案内板」に** … 「式典用奉祝事業報告書」に「小野匠守道風命御鎮座の経緯」が載せられている。

以前から小野道風公生誕の地でありながら道風公をお祀りしていないのは寂しいと言われていました。合祀再興八百年祭を斎行するにあたり、滋賀県大津市にある小野道風神社に道風公の御分霊をお願いいたしましたところ、ご好意により、平成30年6月、道風公の御霊を戴き、和爾良神社に勧進することとなりました。

和爾良神社は和爾氏由来の神社で、和爾氏宗家が絶えた6世紀前半頃には創建されたと考えられます。その和爾氏を祖とする小野葛絃が上条に赴任した折、寛平六年（894年）小野道風公が誕生しました。（麒麟抄に「道風者尾張国上条ニシテ生レ給ヘリ」とあり、愛知県史では「現在の上条町付近であろう」としています。）

小野道風公（894～966年）は小野篁（802～852年）の孫。父は太宰大貳をつとめた葛絃。醍醐、朱雀、村上三朝に仕えました。道風公は12歳の時醍醐天皇に書を奉じていることから推測すると10歳前後まで上条にいたものと考えられます。920年（延喜20年）（道風公26歳）に能書によって非蔵人に任じられて昇殿を許されました。道風公





ふるさと



渡辺崋山筆『一掃百態』の図

# 春日井学研究フォーラム

Forum テーマ：『ふるさと春日井における「寺子屋教育」』

講師：河地 清 氏（「ふるさと春日井学」研究フォーラム会長）

日時：2019年8月11日（日）午後1時30分～4時

場所：市民活動支援センター（ささえ愛センター）2階

TEL：0568-56-1943（〒486-0837 春日井市春見町3番地）

※（非会員の方のみ資料代 500 円当日徴収させていただきます。）定員 80 名（定員で切り切ります）

※申し込み 事務局：〒486-0825 春日井市中央通り2-9 TEL・FAX0568-82-5973 会長 河地 清

mail address:kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp

かすがい市民活動情報サイト：<http://kasugai.genki365.net/> ふるさと春日井学検索

フォーラム案内は中日新聞「ウィークエンドガイド」（毎週金曜日）近郊版に掲載します